

和歌山市 水道事業 経営戦略 概要版



(加納浄水場 全体図)

2019年3月
和歌山市企業局

目次

第1章	経営戦略の概要	1
第2章	水道事業の現状と課題	2
第3章	水道事業の効率化・健全化への取り組み	4
第4章	投資計画	6
第5章	財政計画	7
第6章	料金体系の見直し	8
第7章	計画の点検と進捗管理	9

1 経営戦略策定の経緯

・水道ビジョン
 (厚生労働省 平成16(2004)年度)
 「安心・安定・持続・環境・国際」

・新水道ビジョン
 (厚生労働省 平成24(2012)年度)
 「安全・強靱・持続」

・公営企業の経営に当たっての留意事項について
 (総務省 平成26(2014)年8月通知)

・「経営戦略」の策定推進について
 (総務省 平成28(2016)年1月通知)
 { 経営戦略策定ガイドライン
 地方財政措置
 平成32(2020)年度までの策定要請 }

和歌山市 水道ビジョン
 20年後の将来像
 平成20(2008)年度

実施

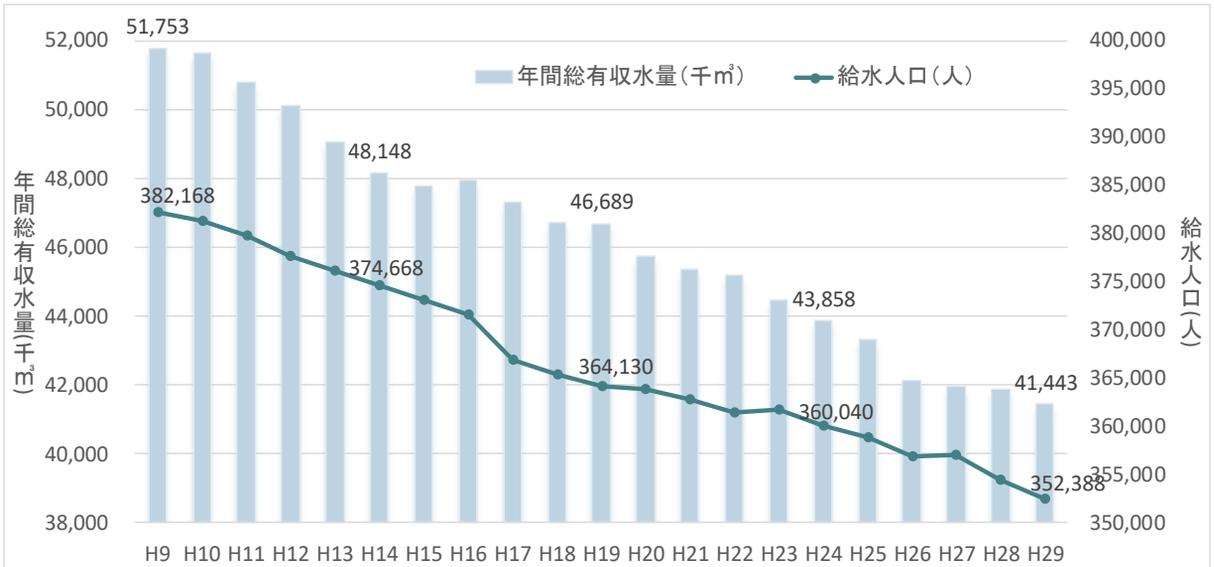
和歌山市水道事業経営戦略
 経営基盤の強化と財政マネジメントの向上
 (平成30(2018)年度)

2 計画期間

2019年度～2028年度(10年間)

1 水需要の状況

(1) 給水人口と有収水量の推移

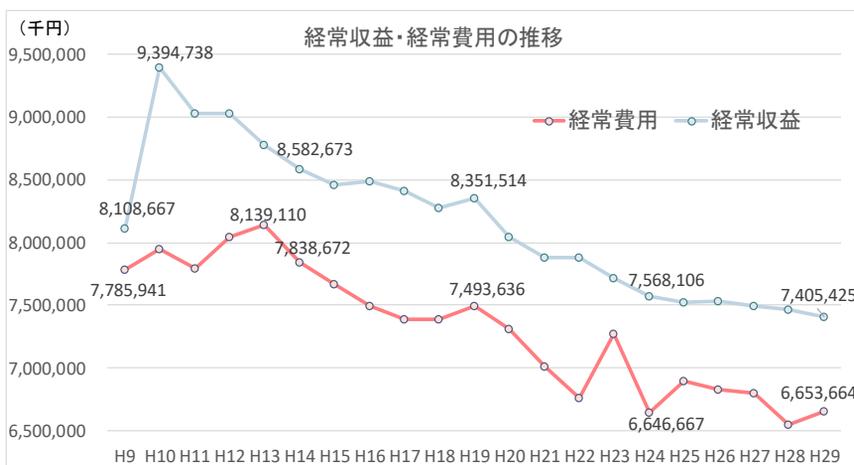


➤給水人口の減少及び節水型社会への移行等により、水需要は減少傾向にあります。

(2) 水需要の見通し

➤今後も、人口減少などの影響により、減少が続く見通しとなっています。

2 経営の状況

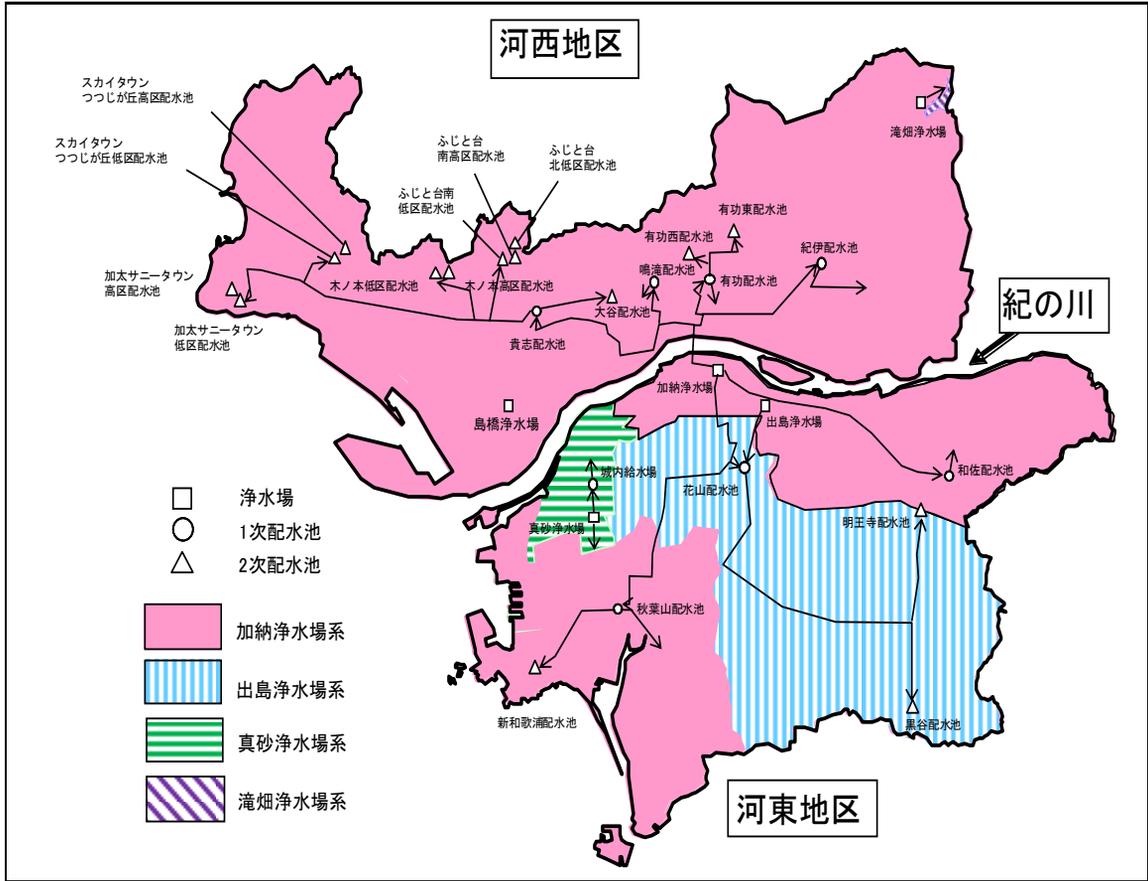


➤経常収益
平成10年度と比較すると、約19.9億円減少しています。

➤経常費用
ピーク時の平成13年度と比較すると約14.9億円削減しています。

3 水道施設や管路の状況

(1) 和歌山市の主な水道施設位置図



(2) 管路の状況 (平成29年度)

- 本市の管路総延長
1, 496 km
- 管路経年化率
中核市より低く、老朽管が少ない状況です。
- 管路更新率
中核市より低く、更新のペースが低い状況です。

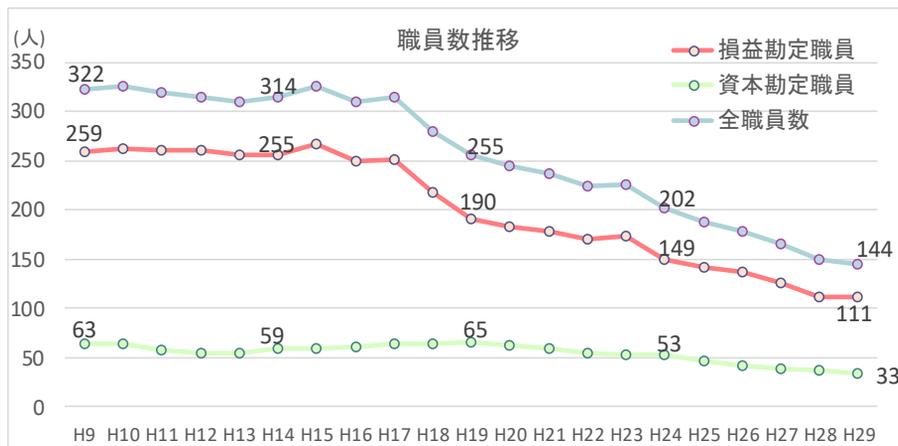
	和歌山市	中核市 平均
管路経年化率 (%)	16.06	19.31
管路更新率 (%)	0.28	0.78

1 取り組みの概要

基本施策	具体的施策
1 経営基盤強化にかか る 取り組み	(1) 人員配置の適正化
	(2) 技術力の向上
	(3) 民間活力の利用拡大
	(4) 財源確保に関する取り組み
	(5) 企業債の抑制
	(6) 資産の有効活用
	(7) 水道料金体系の見直しの検討
	(8) 地下水等使用者への対応
	(9) 浄水汚泥の有効利用
	(10) 情報通信技術の活用
	(11) 広報広聴活動の充実
	(12) 入札制度の検討
2 投資の合理化にかか る 取り組み	(1) 施設・設備の適正化
	(2) 施設の長寿命化
	(3) 民間資金の利用の検討
	(4) 広域化の検討
3 安定給水にかか る 取り組み	(1) 安全でおいしい水の供給
	(2) 災害対策の強化
	(3) 未給水地域への対応

2 経営基盤強化にかか
る
取り組み

(1) 人員配置の適正化



➤ これまでも人員の適正化に取り組んできましたが、今後も災害等への対応力を確保しつつ、合理的な組織体制の整備を図っていきます。

(2) 企業債の抑制

	和歌山市		中核市平均	
	企業債残高(千円)	給水人口1人当たり企業債残高(千円)	企業債残高(千円)	給水人口1人当たり企業債残高(千円)
平成29年度	46,903,157	133.1	19,875,360	52.5
平成9年度	34,325,720	89.8	-	-

➤ 企業債残高

中核市と比較すると、2倍以上あります。事業費の削減などに努めながら、適正な水準となるよう努めていきます。

3 投資の合理化にかかる取り組み

(1) 浄水施設の適正化

加納浄水場	
現在	121,000m ³ /日
(増)	+32,000m ³ /日
計画	153,000m ³ /日

真砂浄水場	
現在	32,000m ³ /日
(減)	-32,000m ³ /日
計画	0m ³ /日 (廃止)



➤加納浄水場へ真砂浄水場を統合します。

➤加納浄水場
増量更新・強靱化を実施します。

➤真砂浄水場
真砂配水場として整備することで、投資及び運転管理に関する経費の削減を図ります。

(2) 管路の適正化

減少傾向にある水需要の見通しにおいて、配水池システムの再構築や管路口径の適正化（ダウンサイジング等）を図ることにより、投資の合理化に努めます。

4 安定給水にかかる取り組み

(1) 安全でおいしい水の供給

水源水質から浄水処理の各工程を経て、給水栓に至るまでの水質監視体制の強化及び水質検査体制の充実を図り、適切に水質管理を行います。

(2) 災害対策の強化

➤応急給水・復旧体制の整備

- ・水道業務継続計画（BCP）を策定し、防災体制の強化に取り組んでいます。
- ・今後も、他都市と一層連携を図るとともに、災害訓練を実施するなど、災害に備えた取り組みを実施します。

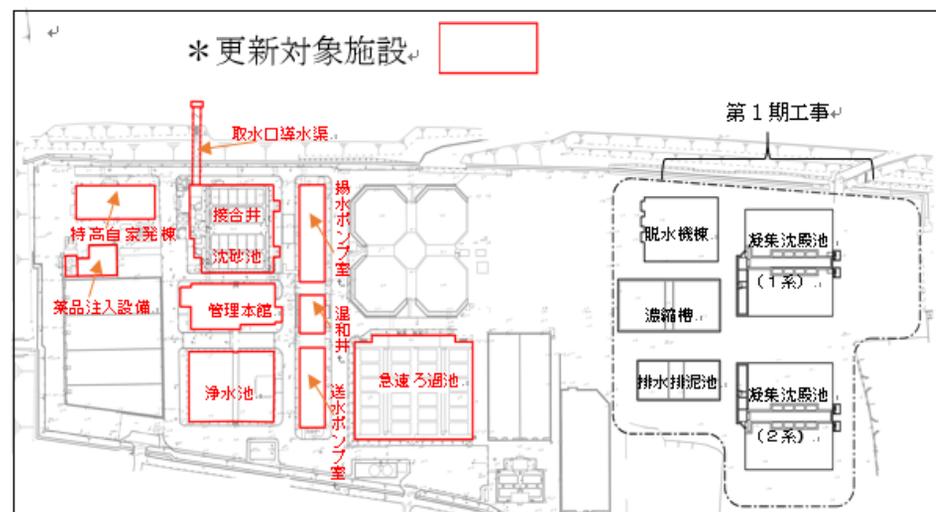
➤給水設備の整備

- ・配水池整備
応急給水に必要な水量を確保するために、真砂配水場を整備します。
- ・緊急遮断弁整備
既設配水池において、災害時に配水池の水が流出しないようにするため、緊急遮断弁を整備します。

1 浄水場整備計画

➤加納浄水場の更新工事については、第1期工事が、平成30年度に完成予定となっています。

➤今後についても、計画に基づき更新対象施設の整備を進めていく予定です。



2 管路更新計画

➤管路更新の考え方

①経年化、②機能面、③重要度の3つの視点から優先順位を決定した上で、更新していきます。

➤管路の耐震化

災害に備えるため、優先度の高い路線から布設替を実施し、耐震化を図っていきます。

(管路布設時の様子)



(耐震継手)



(管路の耐震化のイメージ)

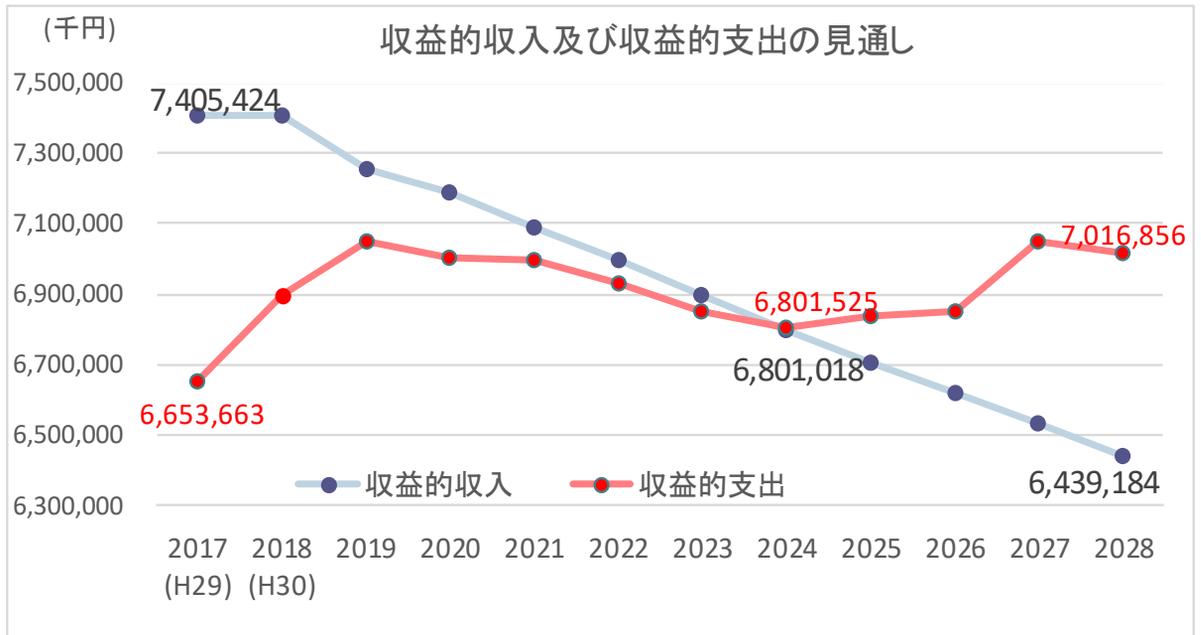


➤有収率の維持・向上

老朽配水管の布設替など継続的に実施していきます。

	2017 (H29)年度	前期 2023年度末	後期 2028年度末
有収率(%)	84.59	88.00	91.00

1 財政状況の見通し



➤収益的収入

料金収入の減少等に伴い、9.7億円減少する見通しです。

➤収益的支出

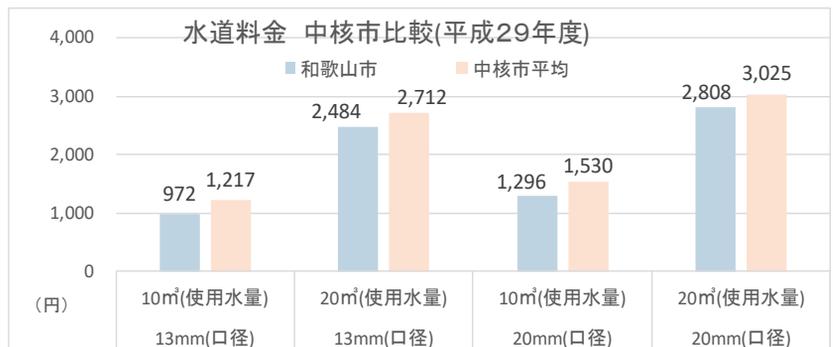
減価償却費の増加等に伴い、3.6億円増加する見通しです。

➤経常損益

2024年度以降は赤字に転落し、収支が悪化していく見通しです。

1 中核市における水道料金の比較

➤中核市と比較すると本市の水道料金は安くなっています。



2 料金改定をした場合のシミュレーション

- 財政計画では、2024年度に赤字に転落し、2025年度以降も収支が悪化していく見通しとなっています。
- 施設の更新に必要な財源を確保し、水道事業の健全な経営のために必要な資金を確保するためには、水道料金の改定が必要となります。

前提条件	料金設定
2028年度末の企業債残高が、2017年度と同水準になるようにした場合	2024年度に21.1%の料金改定が必要となる見通しです。
2028年度末の「給水人口一人あたり企業債残高」が、2017年度と同水準になるようにした場合	2024年度に30.9%の料金改定が必要となる見通しです。

3 料金体系の見直しに向けて

- 人件費の削減を中心に事業費の削減を図ってきましたが、これ以上の人員の削減による費用削減は難しい状況です。
- 原価を考慮しない低料金は、給水サービスの全般的な低下を招くことになります。
- 投資した費用については適切に回収し、また将来世代への過度な負担を残さないようにする必要があります。



- 本計画期間内において、時代に応じた料金体系を検討していきます。

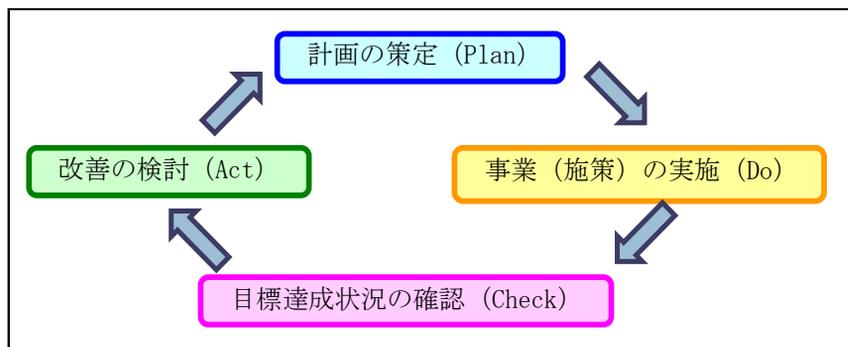
1 経営戦略における目標指標

	指標	意味	和歌山市			2017 (H29)年度 中核市 平均
			2017年度 (H29年度)	前期目標 2023年度	後期目標 2028年度	
1	経常収支比率(%)	経営の 健全性	111.30	100.70	109.31~117.79	117.37
2	企業債残高対給水収益比率(%)		693.20	702.22	578.47~668.82	300.52
3	料金回収率(%)	経営の 効率性	106.77	95.78	104.96~113.83	111.67
4	施設利用率(%)		63.01	58.10	75.11	63.66
5	有収率(%)		84.59	88.00	91.00	90.82
6	管路更新率(%)	老朽化 の状況	0.28	0.54	0.50	0.78

2 計画の推進と点検・進捗管理の方法

➤経営戦略の各施策を着実に実施するため、PDCAサイクルを活用します。

➤適切に進捗管理を行うとともに、3～5年ごとを目途に必要な応じて見直しを行います。



和歌山市 水道事業 経営戦略 概要版

発行 2019年3月

和歌山市企業局 経営管理部 経理課

〒640-8511 和歌山市七番丁23番地

TEL：073-435-1125

FAX：073-435-1280

e-mail：keiri@city.wakayama.lg.jp

ホームページ：http://www.wakayamashi-suido.jp/